

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成27年12月 日

岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策の展開や教育活動の改善に役立てるため、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。

1. 調査の目的（文部科学省による調査）

- ① 国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

●【教科に関する調査】（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題（A）

主として「活用」に関する問題（B）

●生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に関する調査

学校に関する調査

3. 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

■教科に関する調査

- 小学校では、各校の授業改善がすすみ、国語A・B、算数A・B、理科ともに県内平均を上回り、着実に力を伸ばしていることがうかがえます。
- 中学校では、国語A、数学A、理科ともにほぼ県内平均と同程度であり、一定の効果があがっていると考えられます。

■質問紙調査

- 小学校では、特に「自尊意識」、「規範意識」、「学習（国・算・理）に関する関心・意欲・態度」に高まりを見ることができます。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった。」、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示され、終わりに振り返る活動をよく行った」と答える割合が高く、各校の取り組みの充実がうかがえます。
- 中学校では、特に「規範意識」、「学習（国・算・理）に関する関心・意欲・態度」に高まりをみることができます。また、「生徒の間で話し合う活動をよくやった」と答える割合が高く、話し合いや発表の機会を取り入れ、授業改善を進めていることがうかがえます。

4. 今後の課題

- ◇ 小学校では、複数の情報を関係付けて考えをまとめて発言したり、伝えたいことが伝わるように書いたりする力を更に伸ばしたい。
- ◇ 中学校では、小学校でつけた力を伸ばしきれていないという県同様の傾向がうかがえます。

分析結果をもとに、今後の学力向上策、各校の教育活動の改善に活かしてまいります。